

令和4年度 第1回図書館協議会

資料

令和4年7月7日(木)

柏市立図書館

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告事項
 - (1) 令和3年度主要事業報告
 - (2) 令和4年度主要事業
 - (3) 令和4年第2回定例会（6月議会）報告
- 4 令和3年度柏市立図書館協議会の振り返り
- 5 グループワーク
- 6 その他
- 7 閉会

目 次

1	柏市立図書館協議会委員名簿	1
2	柏市教育委員会 出席職員名簿	2
3	令和3年度主要事業報告	3
4	令和4年度主要事業	4
5	柏市議会での図書館関連の質問等について	6
6	昨年度からの柏市立図書館協議会の振り返り	8
7	「市の問題意識と方向性」について（再掲）	11
8	グループワーク	12

1. 柏市立図書館協議会委員名簿

令和4年6月25日現在

番号	選出区分	氏名	職等	役職
1	学校教育関係者	いわなが あきこ 岩永 朗子	柏市立土中学校長	
2	〃	きさま ひろみ 笹間 ひろみ	柏市学校図書館コーディネーター	
3	社会教育関係者	はむら たいが 羽村 太雅	一般社団法人サイエンスエデュケーションラボ理事長	
4	〃	みやじま きりえ 宮島 衣瑛	一般社団法人 CoderDojo Japan 理事	
5	〃	ふじた としこ 藤田 とし子	特定非営利活動法人柏ソーシャルキャピタル協会理事長	
6	〃	たかはし ふみなり 高橋 史成	社会福祉法人柏市社会福祉協議会 地域福祉課長	
7	家庭教育の向上に資する活動を行う者	つねの まさとし 常野 正紀	多世代交流型コミュニティ実行委員会代表	
8	〃	よしはら みゆ 吉原 美優	K I K A I (カシワワカモノプロジェクト) メンバー	
9	学識経験者	みうら あきひろ 三浦 章宏	元千葉県立西部図書館長	会長
10	〃	たんま やすひと 丹間 康仁	千葉大学准教授	副会長
11	〃	ささき ひでひこ 佐々木 秀彦	公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 企画部 企画課長	
12	その他	はやかわ さきこ 早川 沙希子	公募委員	

(敬称略)

任期：令和3年6月1日から令和5年5月31日まで

2. 柏市教育委員会 出席職員名簿

番号	所属	職名	氏名
1	生涯学習部	部長	宮島 浩二
2	図書館	館長	坂口 園子
3	〃	統括リーダー	柳川 行秀
4	〃	副主幹	千田 雅之
5	〃	副主幹	芦澤 慎二
6	〃	主査	大野 真奈
7	〃	主査	大里 祥子
8	生涯学習課	課長	沖本 雅樹
9	中央公民館	館長	相川 章代
10	文化課	課長	田口 大

3. 令和3年度主要事業報告

1 地域情報コーナーの設置等

- (1) 増尾分館「高島野十郎コーナー」（令和3年6月30日設置）
2か所目の地域情報コーナーとして、増尾地域にゆかりの画家・高島野十郎のコーナーを設置しました。
- (2) 永楽台分館「只見町情報コーナー」（令和4年2月25日設置）
3か所目の地域情報コーナーとして、永楽台分館に「ふるさと交流都市」である只見町のコーナーを設置しました。
- (3) 図書館ホームページに「柏市立図書館 デジタルアーカイブ」ページ公開
図書館ホームページに地域資料16点を公開しました。当該ページに掲載されているデータはクリエイティブ・コモンズ(CC)表示 (BY) 4.0 国際※のライセンスの下に提供しており、自由に利用・改変および二次利用することが可能です。

※CC BYとはクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの1つで、作品の原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示することを主な条件とし、受け手が自由に利用・改変及び二次利用することが可能な自由度の高いCCライセンスです。



2 巡回展示「柏のむかしばなし」（4～3月）

柏市観光協会が作成した「ふるさと柏のむかしばなしマップ」や挿絵付きの物語を図書館所蔵の資料とともに本館1か所と分館6か所、小学校1校で紹介しました。

3 その他の主な実施事業

- (1) 小中・高校生向けの新聞の提供を開始（4月）
- (2) 『本と花の広場@柏 2021』の展示（本館：4月）（柏まちなか図書館連携企画）
- (3) 夏休み調べものカウンター（本館：8月）
- (4) マンデーライブラリーラボ（本館：8月）
- (5) おびコレ2021（本館：8月、分館：9月）
- (6) 中学生ビブリオバトル（オンライン開催：10月）
- (7) 『みんなで選ぶ絵本30選』の展示（本館・こども図書館：12月）
（kamon かしわインフォメーションセンター連携企画）

4 新型コロナウイルス感染症対応

- (1) 本館夜間開館を再開（令和3年6月23日）
- (2) 返却資料の72時間隔離措置を終了（令和3年10月1日）
- (3) おはなし会を段階的に再開（令和4年1月）

4. 令和4年度主要事業

1 地域

(1) 地域情報拠点化事業の推進

永楽台地域と只見町の交流は40周年の節目を迎えており、永楽台地域ふるさと協議会では40周年記念プロジェクトとして写真の収集や動画の作成を予定しています。

只見町との交流の歴史を知ることができる資料の収集には、永楽台地域ふるさと協議会との連携が欠かせないものと考えています。永楽台地域ふるさと協議会や地域住民と協働した資料の収集・整理活動に取り組んでいきます。



(2) 「民話の里づくり」プロジェクト（増尾町会）の発足

増尾町会で「民話の里づくり」プロジェクトが発足しました。地域交流の促進をはかり、町会員の地域への愛着を深めるため、増尾町会内に古くから言い伝えられた「民話」の文化的価値を伝承し、その普及に向けて、「民話」に登場する場所の周辺を含めてウォーキングコースや散策コースを提案し、マップの作成や看板を設置したりするとのことです。

図書館としては、作成された資料を図書館資料として広く提供したり、活動の様子を記録することで、地域住民と一緒に資料を整理して未来に引き継ぎます。



2 子ども

(1) 夏休み調べものカウンター

毎年、夏休みの期間中に本館のこどものへやにレファレンスカウンターを設置しています。これまでは図書館職員が子どもたちからの質問を受けていましたが、今年度は学校図書館指導員と一緒にを行うことを予定しています。

(2) マンデーライブラリーラボ

夏休み期間中の図書館休館日となる8月1日（月）に小学生を対象として、科学をテーマとした講座を開催します。

(3) おびコレ2022

昨年度の子ども司書がおすすめ本の「帯」を作成し、本と一緒に展示します。夏休み期間中に本館で、その後に学校近くの分館で展示し、帯付きで貸出も行います。

(4) 中学生ビブリオバトル

中学校の代表者によるビブリオバトルを開催します。予選はオンライン開催，決勝はラコルタ柏フリースペースで開催し，その様子を Zoom で配信する予定です。（10月）

3 第四次柏市子ども読書推進計画について

「第四次柏市子ども読書推進計画」は，令和4年度中に策定予定です。

4 高田近隣センターリノベーション事業について

近隣センターを所管する市民生活部市民活動支援課では，図書館高田分館が入る高田近隣センターのリノベーション事業を進めており，昨年度末に各機能の面積や配置について決定したところです。図書館の面積は144㎡で現状とほぼ変わらない面積となっています。



高田緑地側から望む高田近隣センター

今年度は市民ワークショップでの意見を参考に書架等の配置や蔵書数を決めるため，設計事業者と協議を行います。なお，リニューアルオープンは令和7年4月を予定しています。

5 市長政策提言「駅前にこども広場とこども図書館の設置」に向けた調査検討

図書を含む様々な機能を集約したこども広場の設置検討のため，先進自治体への視察調査や子育て世帯へのアンケート調査等を通じたニーズの把握を行います。機能集約による利便性の向上を図るとともに，絵本などを通じて子育て世代等の交流促進を図れるよう，子育て関連部署と連携して取り組みます。

6 その他

(1) 多様な資料の収集（蔵書構成の最適化）

資料収集方針に基づき多様な資料収集を行うとともに，除籍を積極的に行い，資料の更新と蔵書構成の最適化を進めていきます。また，展示等を通じて図書館が所蔵する多様な資料の周知を図っていきます。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

ア 入館者カードを廃止（6月15日）

※おはなし会やプラネタリウム上映では参加者カードの記入を継続します。

イ プラネタリウム再開に向けて試行上映開始（7月17日から予定）

(3) 読書バリアフリー推進計画策定に向けた調査研究

策定に向けて必要な基礎情報等の収集や研究を行うことを予定しています。

	<p>り、西口エリアの課題解決も含めて、市街地再開発事業の手法によるまちづくりの検討が長期にわたり継続されている。</p> <p>仮に市街地再開発事業によるまちづくりが実施されれば、①安全で機能的な交通広場②人々が交流するオープンスペース③不燃化された建築物、など、防災性が高く便利で快適な都市空間の創出、まちの賑わい・良好な経済循環を生み出すといった効果やまちの課題解決が図られる。</p> <p>このことから、引き続き準備組合の検討状況を共有し、市の持続的な発展に繋がる計画となっているかどうかを確認していく。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

質問要旨	電子図書館について
答弁要旨 (生涯学習部)	<p>電子図書館については、令和4年4月現在、306自治体で導入されている。この1年間では104自治体で新たに導入されており、急速に電子図書館を導入する自治体が増えている。</p> <p>また、これまで課題となっていた電子図書館のコンテンツについても徐々に改善してきており、コロナ禍で外出を控える方も多い中で、電子図書館の貸出冊数が増加していると聞いている。</p> <p>なお、非来館型サービスの利便性に加え、文字の拡大・縮小が可能で、読み上げ機能も備えたものもあるため、高齢者や障害者の方にとっても大きなメリットがあると考えている。</p> <p>このような認識のもと、柏市においても電子図書館の導入に向けて検討し、ウィズコロナ時代のサービス提供や多様な市民への情報保障の観点から市民の学びや読書活動を支えていきたい。</p>

質問要旨	北柏駅北口開発で提案されている私設図書館について
答弁要旨 (都市部)	<p>北柏駅北口地区で進められている開発事業※では、令和7年度中のオープンに向けて、スーパーマーケットを中心に私設図書館や民間保育園を含む複合施設の提案がされている。現在、私設図書館の利用料については、民間事業者と協議することとしている。</p> <p>※土地権利者、民間事業者、柏市の3者が協力して、北柏駅周辺の賑わいの創出や利便性の促進、持続可能なまちづくりを目的に、商業施設や私設図書館「まちライブラリー」、子育て関連施設の整備を目指している。令和4年2月に開発事業者として大和ハウスリアルティマネジメント株式会社がプロポーザルを経て選定された。</p> <p>「まちライブラリー」は、個人や団体などが本棚をシェアする私設図書館で、一般社団法人まちライブラリーが企画・運営する。</p>

6. 昨年度からの柏市立図書館協議会の振り返り

1 令和3年度開催日及び会議内容等

(1) 第1回(令和3年7月2日開催)

○情報提供 「社会教育・生涯学習の基礎

ー市民とともに地域をつくる図書館へー」／丹間委員

○グループワーク 「社会教育施設としての図書館の可能性」

「図書館の可能性」への意見	問題意識	方向性
地域資料づくりを地域の人と実践することを広げていきたい	(2)	(1) (2)
地域の資料や情報を収集活動したい住民がどのくらいいるのか	(2)	(1) (2)
資料からどうやって価値を生むか	(2)	(1) (3)
分館が地域に多くあることが柏市の強み		(4)
地域課題を解決する上で分館の特色を。分館はミニ本館ではない		(4)
コロナ禍での現状の記録をどう残していくか	(3)	
資料収集は過去だけのものか。未来へのつながりをどう作っていくか	(4)	

その他の意見
目指す地域資料づくりとは、子どもが学校で得るだけでなく、社会人から情報元として活用してもらえるもの
地域の財産として資料が図書館にあり、それを自由に手にすることで、無から有にできる人材が生まれる施設にしたい
unlearn (学びほぐす) について、図書館は何ができるか

(2) 第2回(令和3年12月24日開催)

○情報提供 「地域の資料・情報センターとしての図書館へ」

／慶応義塾大学文学部准教授 福島幸宏氏

○グループワーク 「市の問題意識と方向性」

「問題意識」への意見	問題意識
市内の伝統行事が担い手不足等で存続の危機にある。公的な記録・保存が喫緊の課題	(1)
地域の伝統行事に携わる市民に危機感を共有できる場が必要	(1) (2)
人々の記憶(心の中)も地域の歴史。これをアーカイブすることも大切	(2)
アナログ資料のデジタル化と併せて、デジタル資料(地域の情報を発信するWebサイト等)のアーカイブも必要	(3)

行政側にデジタルアーカイブを受け入れる土壌があるのか	(3) (4)
----------------------------	---------

「方向性」への意見	方向性
地域情報の収集活動は、地域のアイデンティティ形成につながり、新たなコミュニティを結び直すきっかけにもなる。	(1)
収集活動を通じて、地域資料に携わる人材を育成しながらアーカイブを構築していくことが、持続可能な活動につながる	(2)
コーディネーターを配置することで、ボランティアや担い手が入れ替わっても、持続可能な活動になる	(2)
定期的にシンポジウムや展示会等のイベントを開催し、活動そのものをPRする	(3)
情報を集約するだけでなく、資料の存在を周知し、発信していくことが大事	(3)
分館を地域情報の拠点とし、その地域にしかない資料・情報の集約・発信を行う	(4)

その他の意見（収集について）	問題意識	方向性
地域の伝統行事について、現状把握とその支援をするべき	(1)	
高齢者のオーラルヒストリーの聞き書きを、小中学生にできないか	(1)	
(参加を促すための提案)	問題意識	方向性
義務感ではなく楽しい取組とする。「地域のため」という意識が大切		(1) (3)
資料を収集・保存した後に、イベントや講座等で資料をPRし、情報提供していくなどアウトプットしていく必要がある		(3)
分館毎にテーマを特化した収集チームを作り、地域から参加を促す		(4)
モデル事業をいくつかの分館で実施して横展開する		(4) (5)
(連携・役割分担について)	問題意識	方向性
収集の担い手はボランティアだけでなく、担当課と連絡調整するコーディネーターが必要		(2)
地域の人材育成とともに、地域資料をアーカイブしていくには専門的な知識やスキルが必要なので、委託という手法も考えられる		(2) (5)
学校ではコミュニティスクールが進められている。地域資料の活用を通じて、図書館が地域と学校をつなげる役割を担えるのではないか		(3)
分館はミニ本館ではない。それぞれがどのような取り組みをしていくのが重要		(4)
図書館が担うことと他部署・組織に任せることの線引きが必要		(5)
(その他)		
地域資料を集める際の基準・線引きが必要		
地域情報の活用を図るためには、二次利用が可能な形での公開が重要		
資料の存在を周知するため、非図書資料も図書館システムで検索できるようにすべき		
検討している地域資料の捉え方が大人目線。子どもたちの捉え方は違う		

(3) 第3回(令和4年3月1日～16日書面開催)

○意見書の提出 「修正した『市の問題意識と方向性』について」

市の問題意識と方向性について	問題意識	方向性
※市民は図書館の役割・機能（地域資料を収集・整理・保存・提供）を知り、自らそれに参加するという「仕掛け」をつくる必要がある		(3)
近隣センター等で活動する市民団体等との連携が不可欠	(2)	(5)
地域情報コーナーの設置後、地域資料を活用した市民参加型の事業展開に期待したい		(1)(3)
本事業は、①複数年での取組②最終ゴールの明確化③市の他部署や外部団体と連携、などの役割分担を考える必要がある		(5)
地域資料の収集・記録について、コーディネーターを配置するなどして、関わる人をいかに取り込めるか		(2)
「柏市図書館のあり方」との関連性を明記してはどうか		
※とくに「資料等の散逸について危機感」は、市民全体で共有すべき課題	(1)(2)	
図書館の限界性を示し、市民との協働が組織的にできると理想		(5)
個人の「語り」や失われていく記憶も重要な資料として残していきたい	(1)(2)	
本事業を進めるにあたり、ゴールの日付を明確にしたい。方向性(5)②～⑤を同時並行して検討・実施するための体制づくりが急務		(5)
持続可能な取り組みに向けて、地域資料の収集・整理の基本ルールのあり方が重要	(4)	
※地域情報の発信と次世代への受け継ぎの必要性を感じる。次世代へは小学校中学年層が対象にしやすいのでは	(4)	(3)
本事業は17分館ある柏市の特徴を生かす重要なもの。これまで実施した3館の取組みを振り返り、今後の課題整理が必要		(4)
地域情報について、「過去」だけでなく「今」「未来」の資料も欲しい	(3)	

※今回のグループワークのテーマとすることのご意見のセルを薄く塗りつぶし（オレンジ色）ています。

7. 「市の問題意識と方向性」について（再掲）

1 問題意識

- (1) 世代交代等により、市民が保管している地域の歴史や様々な活動を記録した資料が次々に失われていることに危機感を持っています。また、地域の伝統行事も担い手不足等で存続が危ぶまれており、記録の保存が喫緊の課題だと認識しています。
- (2) 収集対象となる地域資料は、流通する書籍に限らず、様々な形態（写真・チラシ・冊子・電子データ等）があり、地域住民自身もその価値を認識していないこともあります。このため、資料等の散逸について危機感を共有するとともに、多様な主体と連携した収集活動が必要だと考えます。
- (3) 「いま」の資料や記録を残すことも大切です。近年では、Webのみで発信される地域情報も多く、地域の活動記録や歴史を残すためには、デジタル情報への対応が不可欠です。
- (4) これらの資料や記録を収集・整理し、次の世代に引き継ぐことは、地域資料の収集の役割を担っている図書館の使命であると考えます。

2 方向性

- (1) 地域資料の収集・整理の活動では、地域の人々が自ら価値を発見していく過程が重要です。地域への誇りや愛着の醸成、新たなコミュニティを結び直すきっかけにもなると考えています。
- (2) 地域資料に携わる人材を育成しながら行うことや、図書館（行政）と地域住民を結ぶコーディネーター役を配置することが持続可能な活動につながると考えます。
- (3) 資料の存在を周知し、資料を活用した取組（館内展示、学校連携等）を発信していくことが重要です。学術的な取組と、広く興味・関心を喚起する取組の両面から事業を行うことで、より多くの市民が関与する仕組みを構築します。
- (4) 市内に分館が17館ある特徴を活かし、その地域にしかない資料・情報を地域の分館に集積し、各分館が地域情報の拠点として機能するよう取り組みます。
- (5) この「地域情報の拠点化事業」を進めるにあたっては、①試行的・段階的に取組を行う、②限られた図書館の経営資源の再配分、③図書館が担うことと他に任せるとの線引き、④外部組織との連携、⑤利活用を前提としたデジタルアーカイブの構築、を考慮して事業を検討します。

8. グループワーク

1 地域情報拠点化事業への理解者・応援者を増やすために

前回の、令和3年度第3回柏市図書館協議会（書面開催）では、「市の問題意識と方向性」について、次のご意見をいただきました。

○市民は図書館の役割・機能（地域資料を収集・整理・保存・提供）を知り、自らそれに参加するという「仕掛け」をつくる必要がある

○とくに「資料等の散逸について危機感」は、市民全体で共有すべき課題

図書館の現場では、貸出機能が目立つことで、その他の大切な図書館の役割や機能について、市民の方や市職員に知られていない（理解されていない）ということを実感しています。

地域情報拠点化事業を進めていくうえでは、まず、地域の資料や情報のアーカイブ機能が図書館の重要な役割である、との共通認識を持つことが重要だと考えています。

さらに、未来に残すべき大切な地域資料が世代交代等により急速に失われている危機感を共有することが必要だとも考えます。

そこで、地域資料のアーカイブ機能についての理解を広めたり、地域資料が失われている危機感を共有するために、どのようなことが考えられるか、委員の皆さまからご意見やご提案をお伺いします。

2 具体的な事業のアイデアについて

また前回は、次のご意見もいただきました。

○地域情報の発信と次世代への受け継ぎの必要性を感じる。次世代へは小学校中学年層が対象にしやすいのでは

市民に関心を持ってもらい、取り組みを広げていくためには、成果を「見せて」いくことが大切だと考えます。

地域活動では、「子ども」がカギとなって様々な取り組みが展開されることが多くあります。

また、市内には地域の歴史や自然に詳しい大人も大勢いると考えています。

そこで、地域の未来を担う子どもたちが地域を知るために、図書館はどのようなことができるか、「地域×子ども」という視点から、ご意見やご提案をお伺いします。

3 グループ分け

(A班) 岩永委員，三浦委員，早川委員

(B班) 笹間委員，羽村委員，高橋委員，丹間委員